



若者の問題か、単身の問題か

—平成24年度市民アンケート調査2次分析報告(2)—

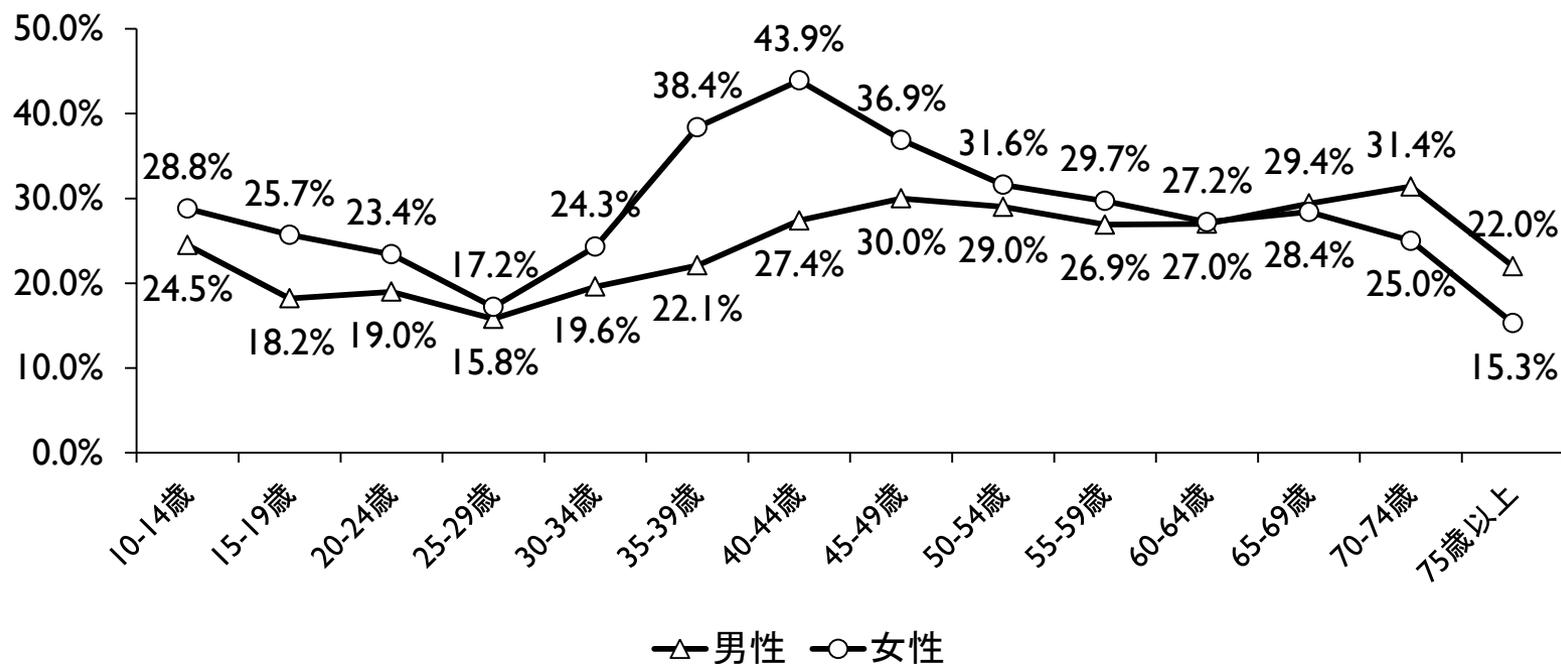
成蹊大学文学部
渡邊大輔

本報告のメッセージ

- ▶ 地域へのコミットメントの低い人はだれかを分析する
 - ▶ 若年単身者と語られる問題
- ▶ 単身者の意識はひとくくりにはできず，若年層と中高年齢層で異なる
- ▶ それぞれのターゲットを踏まえた「しかけ」づくりが必要

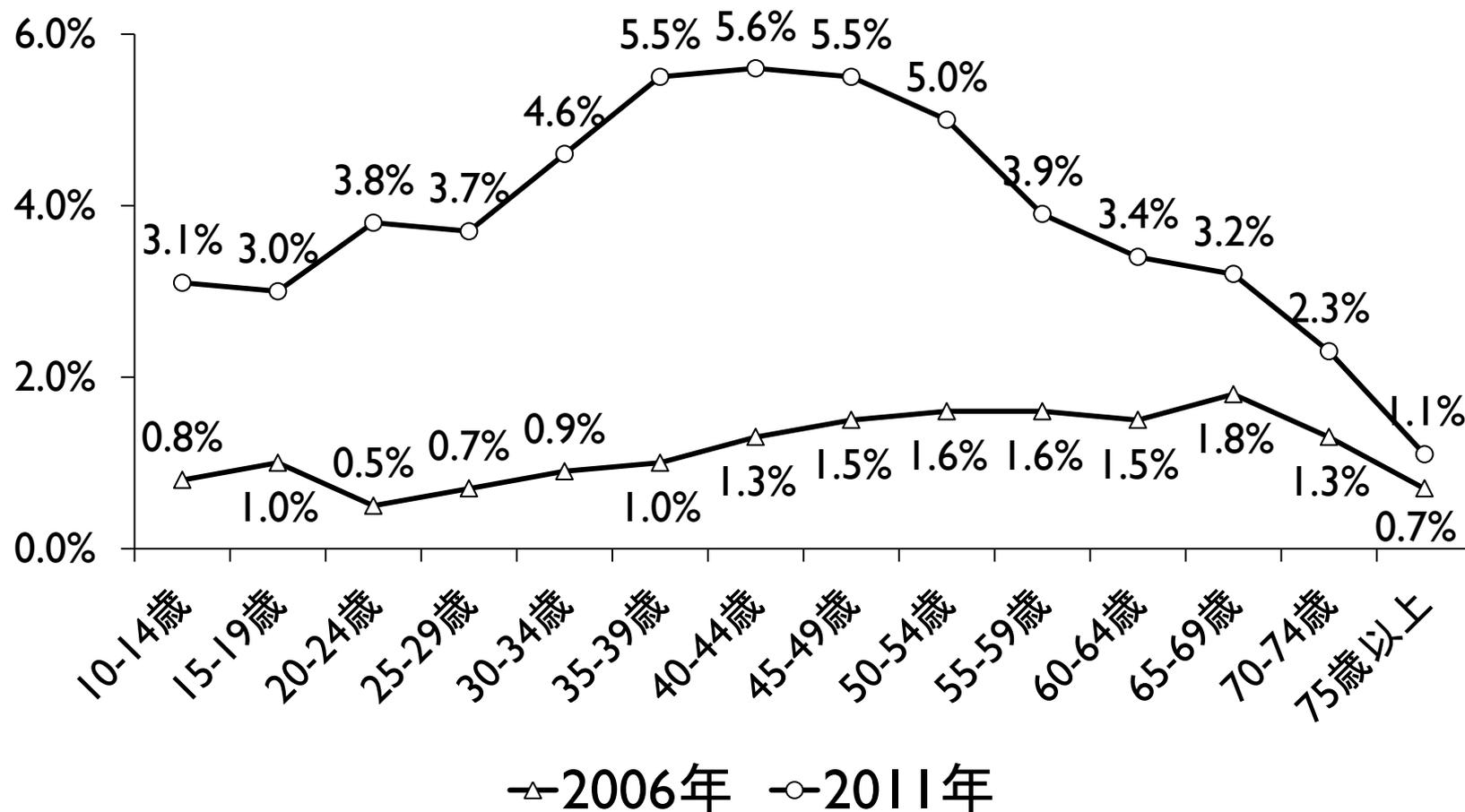
若者は地域・ボランティア活動をしらない？

▶ 性別別，年齢階級別行動者率



- ▶ なお，参加要因は地域による影響が大きいとの指摘もある(穴戸，2008)

2006年, 2011年の 災害ボランティアの行動者率



出典: 統計局, 2013, 「統計トピック」No.67. <http://www.stat.go.jp/data/topics/topi671.htm>

目的とデータ

▶ 目的

- ▶ 地域コミュニティの活動に関心が薄い人々として、「若者」や「単身者」の問題がしばしば指摘されているが、同時にボランティアへの関心の高まりもみられる。
- ▶ そこで、これらの人々の地域へのかかわりや意識について、市民アンケート調査のデータをもちいて分析する。

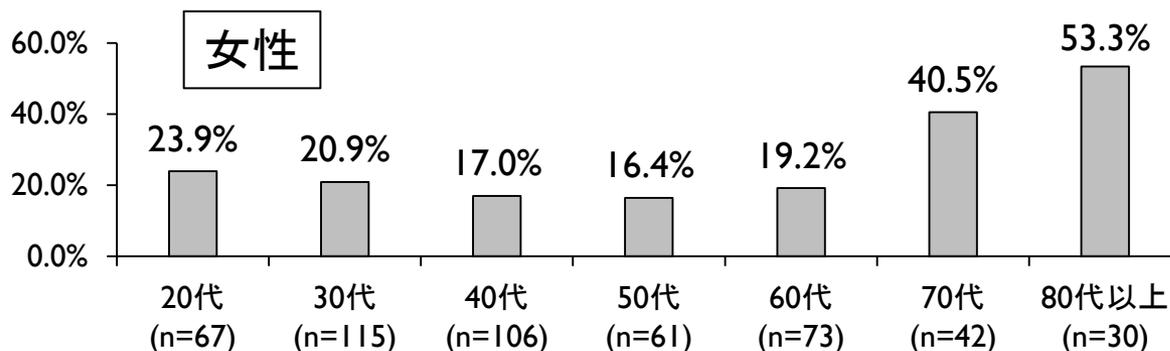
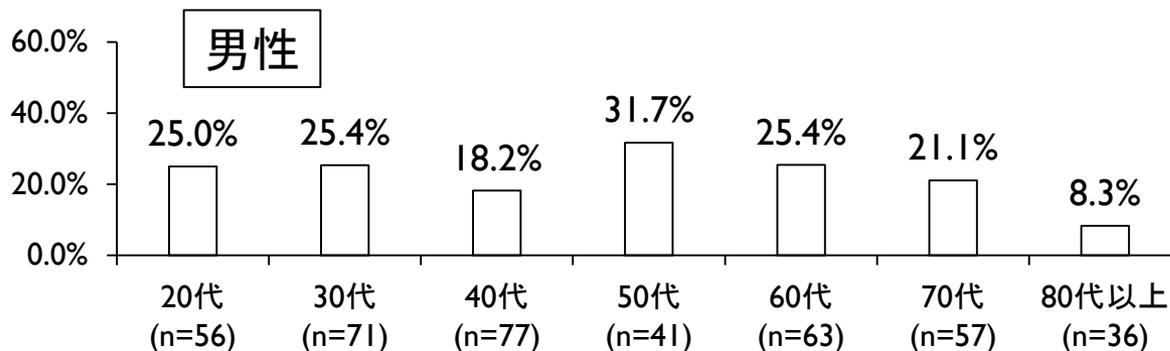
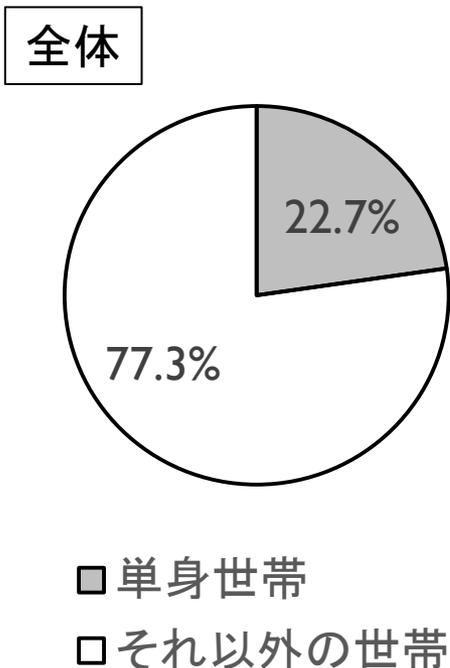
▶ データ

- ▶ 平成24年度「これからの地域コミュニティと市民自治の検討ための基礎調査」市民アンケート調査
- ▶ 18歳以上の男女
- ▶ 計画標本3,000人、回収997人(回収率33.2%)

基礎データの確認(2010年国勢調査)

- ▶ 人口:138,734人
- ▶ 世帯数:71,163世帯
 - ▶ 単身世帯:35,631世帯(50.1%)
 - ▶ 高齢単身世帯:6,895世帯(9.7%)

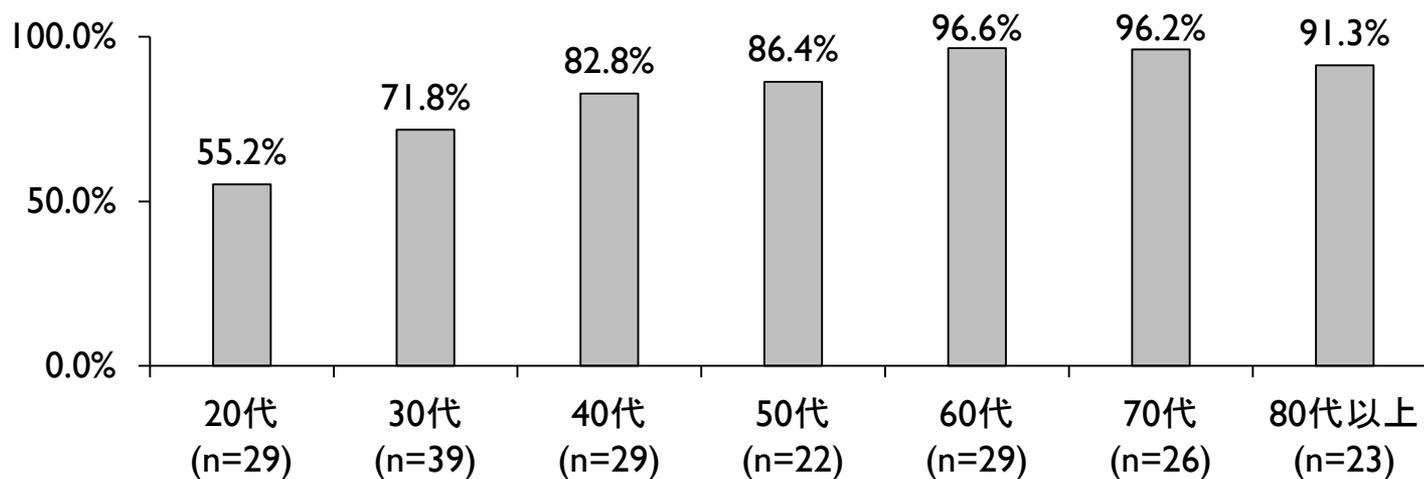
今回のデータにおける単身世帯の割合



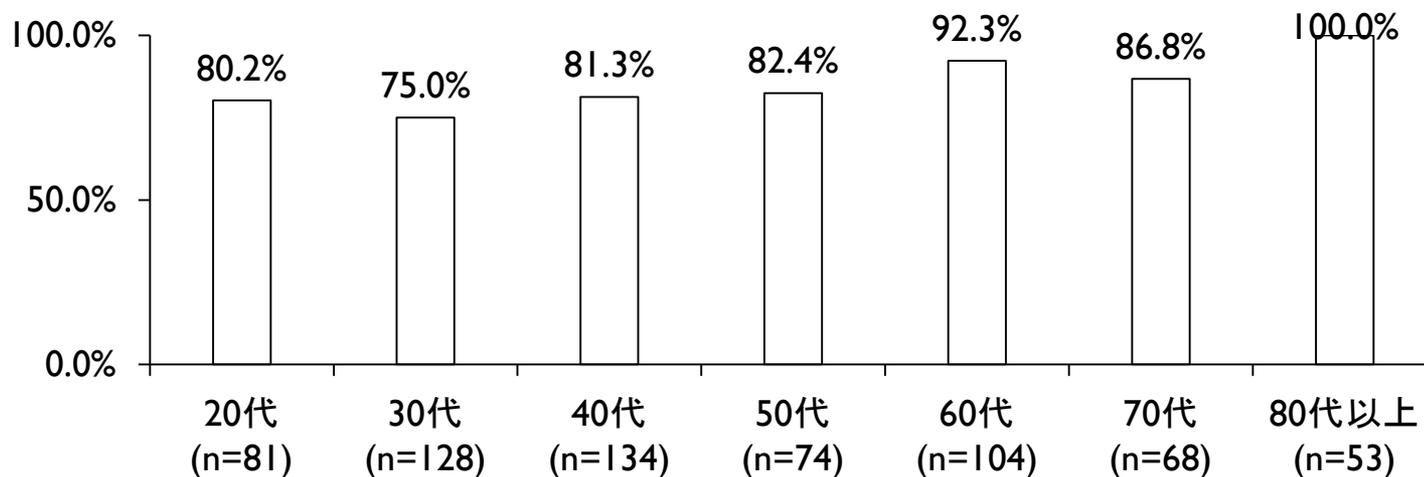
- 回答者の22.7% → 無回答が多い
- 男女の世代による違い
- 地域差（西久保・本町・中町 > 桜堤・南町）

地域に愛着を感じるか？

単身世帯

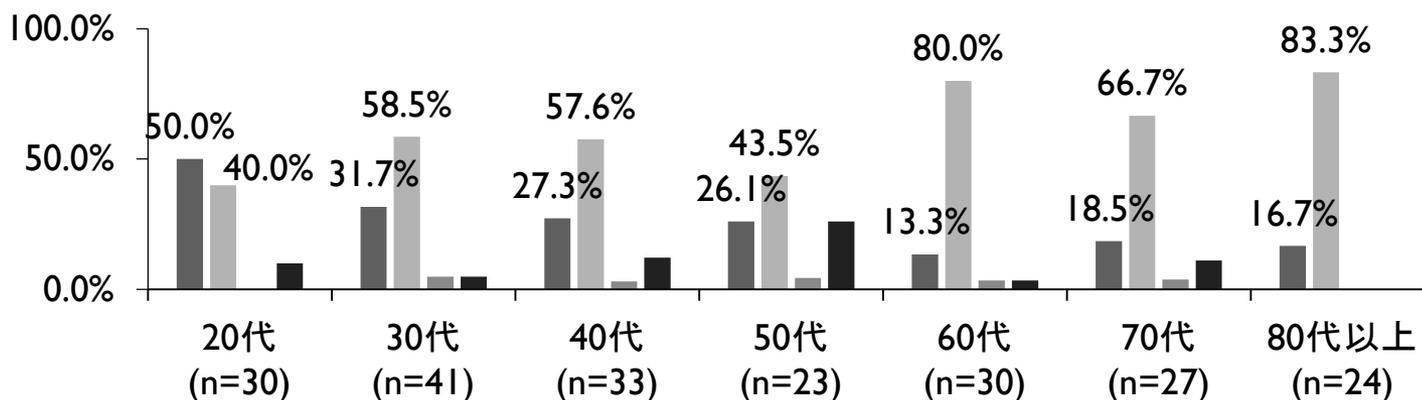


その他の世帯

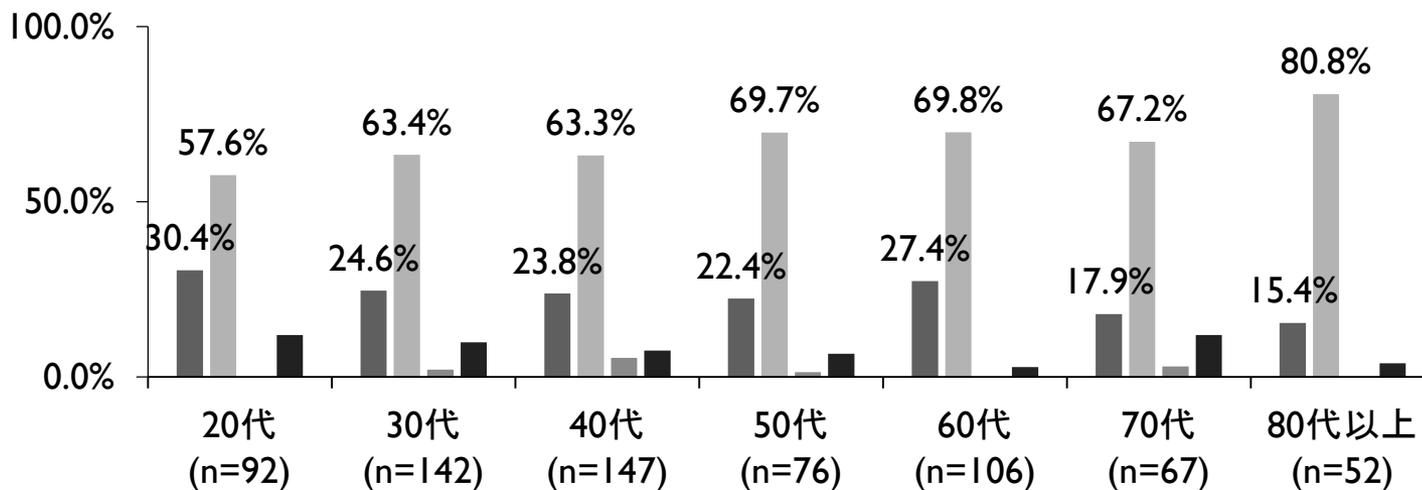


地域とのかかわり方

単身世帯



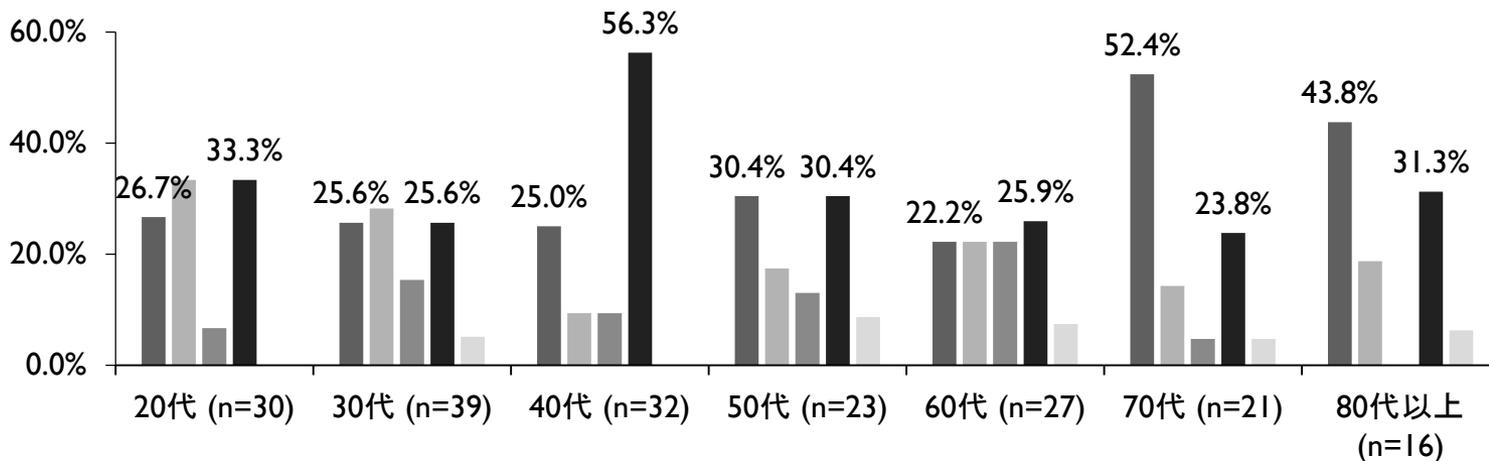
その他の世帯



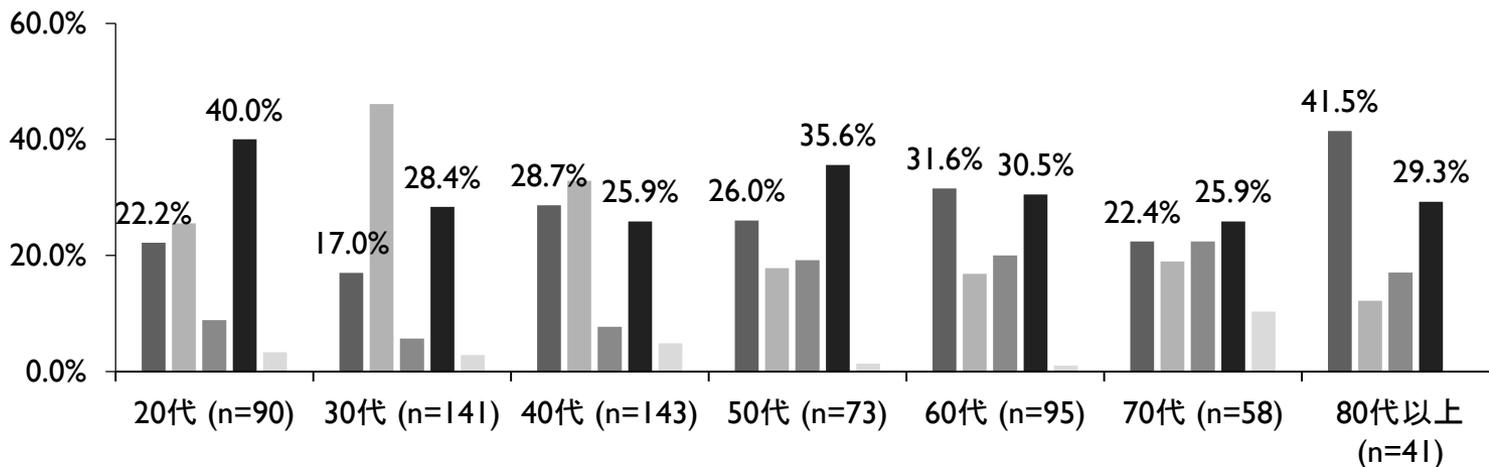
- 地域とより深くかかわりたい
- 現状を維持したい
- 地域とはあまりかかわりたくない
- わからない

地域との具体的ななかかわり方

単身世帯



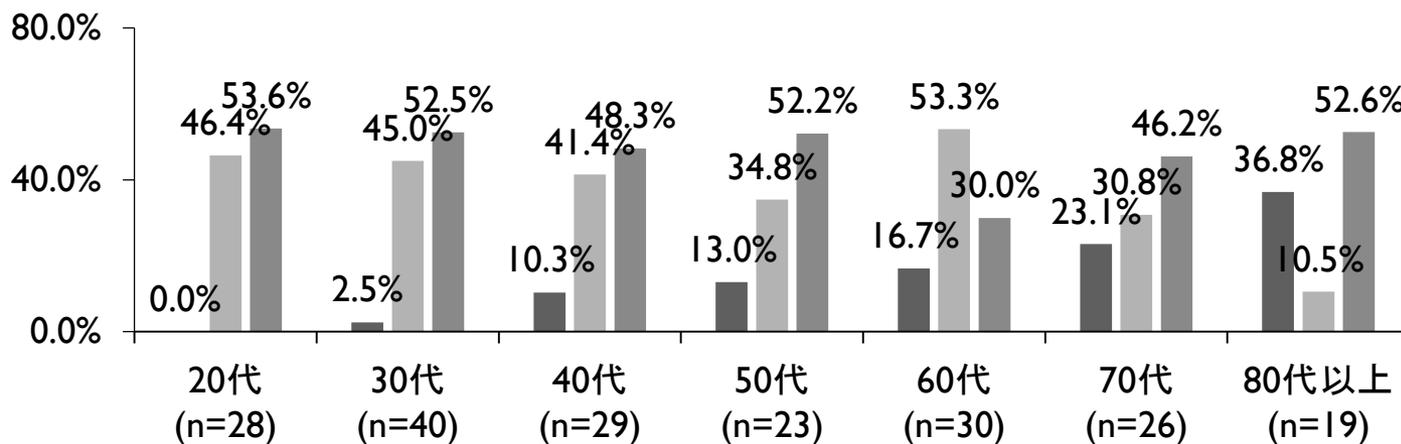
その他の世帯



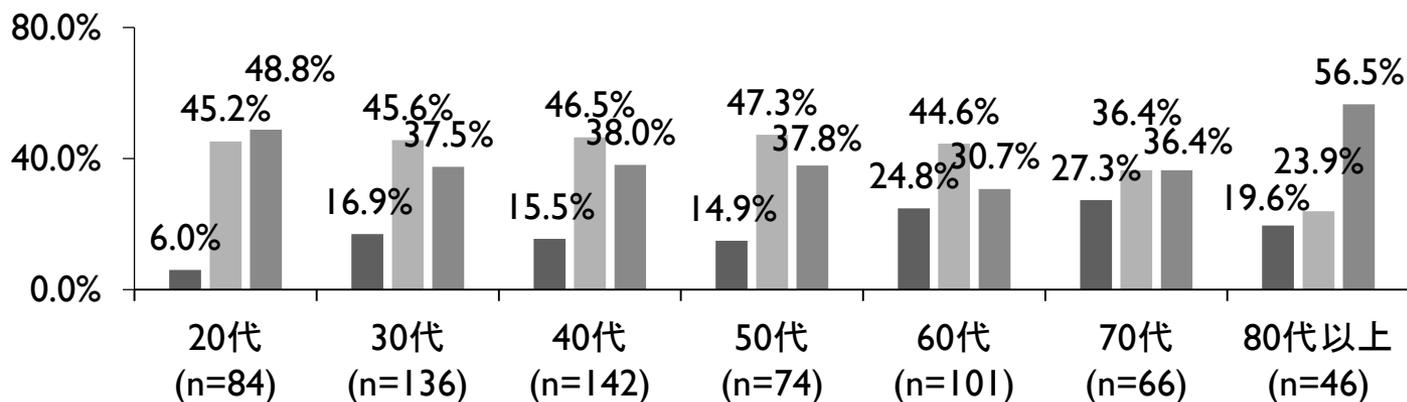
- 地域のことについてより深く知りたい
- 地域の課題を解決したい
- 地域とかかわりたくない
- お祭りやイベント、集会等に参加したい
- わからない

実際の地域・コミュニティ活動への参加状況

単身世帯



その他の世帯



- 参加している
- 今は参加していないが、今後参加したいと考えている
- 今は参加しておらず、参加したいと思わない

分析結果

- ▶ 20～30代の単身世帯
 - ▶ 地域への愛着を感じる割合は低く、実際の行動率も低い。ただし、**それ以外の世帯よりも地域へのかかわりを求める傾向**
- ▶ 60～70代の単身世帯
 - ▶ 地域への愛着を感じる割合は高く、実際の行動率は若干低い。それ以外の世帯と同じく地域とのかかわりは現状維持とする傾向
- ▶ 全体
 - ▶ 地域へのかかわり方が「わからない」人が多い

まとめに代えて

- ▶ 若者だから，という問題ではない
 - ▶ 意欲がある人を“巻き込める”体制が重要
 - ▶ 30～50代女性が主たる担い手であるのは子育て，就学による

- ▶ 「わからない」への対応：ナッジの考え方
 - ▶ 選びたくなる選択肢を与える ⇔ 自由に選ぶ
 - ▶ デザインの力の重要性
 - ▶ 目的別コミュニティとの連携

まとめに代えて（続）

▶ 地域差について

- ▶ 地域協議会，CCという仕組みは地域ごとの違いを吸収して地域ごとにマネージする仕組みとして有益
- ▶ ただし，CC自体の存在を知らない人が多い場合，この仕組みがうまく回らない可能性がある

▶ 無回答者の存在

- ▶ 若年単身者：CC制度などの情報提供が中心
- ▶ 後期高齢単身者：福祉サービスへのアクセス，災害時の対応 → 今後の人口変化を踏まえる必要

<前回の分析要旨>

CC認知率についての分析

- ▶ 青年・中年の認知率は低いが、10代は高い
- ▶ 全体的には女性の方が認知率が高いが、単身世帯のみを分析すると男女差はない
- ▶ CC認知には、地域差がある
 - ▶ 同居子がいる人の認知率が高いが、地域差あり
- ▶ 地域活動に参加している人のCC認知率が高く、参加意欲がある人も参加するつもりがない人に比べて認知率が高い
 - ▶ ただし、単身世帯については参加意欲が認知に結びついていない＝潜在的な層